

(様式第7号)

おおさかグローバル奨学金留学報告書

2015 年 5 月 21 日

学 校 名				奨 学 金 交 付 年 度	2014- 年度 平成25
氏 名					
留 学 期 間	平成 26 年 8 月 15 日 ~ 27 年 5 月 21 日				
留 学 先	国 名	アメリカ合衆国	学校名	アメリカン大学	
専 攻	国際関係学				

留学中の生活、留学の成果、留学で得たことをどのように活かすか、これから留学する人へのアドバイス等について2000字以上で記入してください。

冬休みを終えて、アメリカン大学の後期の授業は1月7日から始まりました。今学期はアメリカでの生活にも慣れはじめたので、前学期とは違い少し難しい授業と国際関係学の授業を取ることに決めました。マイクロ経済学と教育心理学、平和学、東アジアと米国関係の授業を取りました。中でも面白かったのは後者の2つの授業です。まず始めに平和学で面白いと感じた理由は、核兵器について開発から現状について学んだときに教授が核兵器は良いものだと言ったからです。何故なら私は日本では一般的に核兵器と言えば、原子爆弾という印象を強く持ち、原子爆弾は多数の犠牲者を出し後世の世代にも放射能の被害を残したという悪い印象を持っている人が多いように感じ、私もその一員だったからです。私の教授はアメリカが日本の広島と長崎に原爆を太平洋戦争の時に落としたことについても授業内で触れましたが、その時は原爆を落とすことに対しては肯定的な意見を述べていて、正直すこし悲しかったです。しかし、教授がNPTで核兵器を最終的に世界から無くすということを掲げて5つの強国が所持することにより、核兵器が存在することにより強国を含む諸外国は新たな世界大戦に対する抑止力になったということには納得できました。また核兵器以外の授業では、アメリカが世界の平和活動についてどういった人道的な支援を行ってきたかということアメリカの視点から学ぶことができ、思慮を深められる良い機会になりました。次に、私が面白と感じた授業は東アジアと米国関係の授業を受けた時でした。時に記憶に残っているのは太平洋戦争以降の日本、中国、アメリカの関係です。日本は敗戦したのに関わらず植民地にならず朝鮮戦争などを通して物資支援をすることにより数十年でアジアで初めて先進国になった国ということ再理解したり、中国は政権交代以降に経済面で資本主義を取り入れることにより現在の急激な経済発展を可能にしアメリカにも脅威を与えるほどの世界で大きな影響力を持つ存在になったことを日本の教育とは違う視点で知ることが出来ました。また、この授業は数名の中国や韓国の留学生も受講しており、慰安婦問題や南京大虐殺、領土問題などのトピックの授業内で行われました。彼らは日本の教育とは違う考えを持っていて、少し感情的になって話す学生もいましたが、互いの考えの違いを少しずつ理解し受け入れる努力をする必要があると身を持って感じました。その中でアメリカ生徒が中間的な意見を持ち、冷静に問題を見ている人が多かったのが印象的で、私もそういう力を培いたいと思い多くの意見に耳をかたむけるようにしました。またこのクラスでは、数名でプレゼンテーションをしなくてはなりません。私は、4人のグループで私以外は皆アメリカ人の生徒でした。準備の中で、ミーティングを繰り返していく上で私が感じたのは、アメリカの生徒はいつでも自分の意見を持ち、それを述べる力に長けているということでした。

そして、留学生で言語の壁を感じたり課題にも彼ら以上に時間に費やしていた私にも優しく助けの手を差し伸べてくれました。だから、最初は彼らとの言語や力の差に戸惑い苦勞しましたが、助けてもらいながら少しずつ自分の意見を述べるようになっていき、思慮を深めると同時に私もグループの力になれているのだと嬉しくなりました。

授業以外の校内での活動では、前学期と同様にランゲージパートナーのプログラムに引き続き参加しました。しかし、今回は中国人生徒のパートナーではなく日本で将来英語の教師として働きたいという目標を持つアメリカ人生徒のパートナーでした。私は彼女の少しでも力になりたいと思い、日本語での簡単な自己紹介を教えると同時にアメリカと日本の文化の違いで自分が慣れるのに苦勞した経験などの話をしました。ランゲージパートナーのプログラム以外にも、今学期にはアメリカン大学にあったアジア系アメリカ人が作ったソーラン節のクラブにも参加しました。練習は週に一回でしたが、学校でのイベントに積極的に参加したり、ワシントンD.C.で4月に開催される桜祭りに参加し大きな舞台上で大勢の前で日本の民謡と踊りをアメリカの人達に知ってもらおう機会が出来たので嬉しかったし、自分にとって貴重な経験ができたと感じました。ソーラン節のクラブで出会ったメンバーとは、図書館で一緒に課題をしたり休日には一緒に遊びに行ったりと沢山の楽しい時間を共に過ごす事ができ、私の留学で出会った大切で有り難い存在になりました。

それ以外にも、今学期はインターンシップにも取り組みました。ワシントンD.C.でインターンシップをすることは私の留学中の一つの目標だったので、私は積極的にインターンシップを募集してくれる企業を探し、日系企業の旅行会社で3ヶ月間のインターンシップをすることができました。実際に働いてみることで、働くこと~~も~~難しさを身をもって感じたのと同時に、周りの社員の方々が一生懸命に対応されているのを見て私も一人の人間として将来社会や人に貢献できる存在でありたいと感じました。私がその中でも特に驚いたのが、日本人としての気配りの細かさやおもてなしでした。会社に訪れてくるお客さんが丁寧な接客に驚いていたのと、アメリカでのサービスと日本でのサービスの違いに私自身も違いを感じました。それ以降、私は日本人としての誇りを持ちつつ、アメリカ人や外国人と接することの大切さを知る事が出来ました。

学校の授業とインターンシップの体験が終わった後は、留学の締めくくりに、ワシントンD.C.での生活でお世話になった日本人の友人と一緒にフロリダに旅行にいきました。旅行中は楽しい思い出がたくさん出来たと同時に、親身になって助けてくれた友人にとっても感謝しました。

私がこの留学を通じて得たものは、人と助け合うことの大切さと困った時に恥じずに助けを求められる能力だと思います。私がワシントンD.C.に着いた時、先にアメリカン大学にいた友人が空港まで迎えに来てくれたり、日用品を提供してくれたり、ワシントンD.C.で生きて行く上で必要なことを教えてくれました。私もこれからアメリカン大学に留学してくる後輩たちの為に、個人的に連絡を取り合ったりして、少しでも助けになるように勤めました。そして、英語を母国語として話さないの、言語の壁を感じたときは迷わずに教授や周りの生徒に助けを求めようようにしました。助けを求めることに勇氣はありましたが、助けを求めて嫌な顔をする人がいなかったことに気づいたり、私に日本語を勉強する生徒が助けを求めてくる人がいて、人と助け合うことの大切さを日本に居た時以上にアメリカで実感することができました。そして、生活面で私が留学を通して感じたことは、ワシントンD.C.の水は見た目は綺麗ですが、日本とは違い顔や髪を洗った時にガサガサになったり、食事に使ったりことで肌荒れがしました。だから諸外国の水を綺麗に肌や髪に問題がないようにしていく必要があるし、そういう仕事に携われるように努力していきたいと感じた。

※上記の内容については、公表される場合があることを了承します。